The Japanese School of Johannesburg NEWS Letter
めざせ！ 南十字星
5
２０２６(令和８)年
月１４日発行
ヨハネスブルグ日本人学校 学校だより

学校教育目標
国際感覚を身につけ、確かな学力と
豊かな人間性を備えた児童生徒の育成
合い言葉：自立・貢献

動物園･全校遠足からの学び

校長 石山 秀樹

５月８日(金)、ヨハネスブルグ動物園を舞台に、本校今年度最初の全校行事である全校遠足を実施しました。スッキリと晴れ渡った遠足当日、開園時間後間もないためまだガラガラの動物園に着いた JSJ のメンバーは、園内の芝生広場で４つの活動班ごとに集まり、リーダーを中心に広い園内を巡るルートを確認して早速出発しました。

中学生や小学部高学年の児童が低学年の小さな子の手を引いて歩き、動物を一緒に見る姿は微笑ましさ満点です。もちろん、ただ楽しく見て回るわけではありません。活動班について回り、子ども達の様子を見ていると、檻や動物達の前に着くとすぐに「全校遠足のしおり」を広げ、一心にメモを取っている様子がそこここで見られました。遠足前の事前学習では、担当の岩崎教諭が「キリンの角は何本あるでしょう？」といった問いを発し、子ども達に実際に動物たちを前にしての「気づき」や「発見」を促していました。これを受け、子どもたちはしおりの「どうぶつかんさつきろく」にメモを取っていたのです。英語の得意な子が、看板に書かれた説明文を他の児童に教えている姿もありました。園内は広く、活動班で子ども達が巡りたい動物はたくさんいますから、見ているとずいぶん忙しい感じを受けることもありました。しかし、「観点を決めて情報を収集する」「目的に応じた（言語・文章）表現をする」という学習を、どの児童・生徒でも当たり前のように行っている様子には、「さすが、JSJ の子ども達」と改めて感じたところです。

一方で、しおりには「班のみんなのよかったところをさがそう」という欄もあります。私は出発時のあいさつで、「まず、楽しい遠足にしましょう。もう一つ、『みんなで』楽しい遠足にしましょう」と、話しました。中学生や高学年は、全員で班の目標を達成させるためにルートや状況に応じたメンバーへの声掛けを考えたり、時間を計算したりしながら班行動にあたりました。全校遠足は、発達段階の全く異なる異年齢集団が、目標の実現に向けて一つの行動を成功させる取組です。そこでは単に「協力する」だけではなく、共感性やコミュニケーション能力、自制心や問題解決能力、やり抜く力といった、いわゆる「非認知能力」が否応なく試される場でもあります。

合い言葉	第１段階	第２段階
自立	**かしこく**	様々な場で言葉や技術･能力を使いこなす 知識や情報を収集し、有効に活用する 目的に応じた表現ができる
貢献	**すすんでかかわる**	他者の視点から物事をとらえる 目標達成のために他者と協力する 意見や立場の相違･対立を克服･解決する
自立 貢献	**たくましく**	自己をコントロールする 見通しを持って計画的に行動する 建設的に意見の表明･主張をする

今年度の本校は、合い言葉「自立･貢献」、目指す児童･生徒像として上記の「かしこく･すすんでかかわる･たくましく」を掲げています。全校遠足は、まさにこれらのねらいに迫る、「楽しい遠足」になりました。今後の様々な教育活動でも、本校ではこれらの目標のもと、子ども達の成長を支えてまいります。

JSJ News Blog: JSJ NEWS EXPRESS